

第1回中央公園ワークショップの開催

第1回中央公園ワークショップを開始しました！

今回新たに整備を予定しています中央公園について、計画づくりから整備後の運営・活用方法などに至るまでを皆さんと一緒に検討していくための「ワークショップ」が始まりました。

第1回目は、平成25年12月15日（日）13時30分より、市役所7階の大会議室にて開催し、公募市民により、29名の参加がありました。

ワークショップのスケジュールや公園計画の決まりごと、制約事項など、検討条件等の説明の後、現地を確認し、その後、グループワークにて、将来の公園に対する「想い」や「アイディア」について意見を出しあいました。

「ワークショップ」とは、みんなでいろいろなアイデアを出し合いながら、公園の将来について夢を語る「場」です。こんな事したい、あんな事したい、いろんな観点からの意見を出し合いました。



せせらぎ遊歩道ワークショップ（H23）を振り返りましょう

キセラ川西では、全国に先駆け、計画段階より市民や民間を巻き込み、設計、施工、維持管理を一元的に取扱い、それぞれのステージで市民参加を促進することとし、平成23年度には、「せせらぎ遊歩道南線の実施設設計ワークショップ」、そして、本年度は、1ページにも紹介いたしました、中央公園の設計に向けた市民ワークショップを始めたところです。

「せせらぎ遊歩道の実施設設計ワークショップ」では、参加者一同より、以下のような課題を整理し、「報告書」としてまとめられましたので紹介します。

せせらぎ遊歩道ワークショップで今後の課題とされた内容

「せせらぎ遊歩道ワークショップにかかる報告書（平成24年3月 せせらぎ遊歩道ワークショップ参加者一同）より」

●整備方法

- ・生きものが暮らしやすい水辺の環境づくりが重要です
- ・整備への市民参画と官民連携が必要です

●施設の管理運営の方法

- ・管理運営に係わる仕組みや組織づくりが必要です

●市のシンボルとするために

- ・市民に利用される遊歩道となることが重要です

●せせらぎ遊歩道北線と中央公園への関係について

- ・せせらぎ遊歩道北線へのつながりが重要です
- ・中央公園との連携が必要です

上記のうち、とくに今回の取り組みと関わりの深い「中央公園との連携」について、以下に抜粋します。

中央公園はせせらぎ遊歩道に広く面しているため、本来は、一体的な検討を進めていくべきと考えます。このため、せせらぎ遊歩道の生き物や自然とふれあう環境を中央公園に拡張させていくだけでなく、せせらぎ遊歩道にはない機能を中央公園に設け、せせらぎ遊歩道や中央公園を、市民がより「訪れやすい環境」として整えていただきたいと思います。

また、とくに今回、空間機能及び予算等の制約のため、せせらぎ遊歩道南線の中には盛り込むことのできなかつた施設（暑さや雨をしのぐことのできる屋根、広場、ステージ、トイレなど）については、今後の中央公園の計画の中で継続して検討していただきたいと思います。

そのために、中央公園の計画づくりにおいても、今回と同様に、できるだけ市民の意見を反映していただけるような場を検討していただきたいと思います。



せせらぎ遊歩道ワークショップ
で作成した模型

せせらぎ遊歩道は「川西市のシンボル」であり、市民にとっても貴重な財産となります。今後、せせらぎ遊歩道が市民にとって、親しみや誇りを感じさせる魅力的な遊歩道となるよう、全市民へ向けた周知が必要と考えました。

また、せせらぎ遊歩道は中央公園に広く面しているため、中央公園との連携がとくに大切であると思いました。

そのためにも、今回の中央公園での取り組みは非常に意義があると考えます。

中央北歴史コラム—ちょっとふるさと自慢（17）—

この地は、猪名川流域の山間部と平地部の中間点にあり、流域の資源を活かした地の利が特徴だと考え「ふるさと自慢」の足がかりとしてきました。そこに歴史が営まれ今日に連綿と繋がっているのですが、時の流れと今日の急激な土地利用の変化が歴史のつながりを忘れさせます。今回はもっと歴史の始まりの時代のダイナミックな記述を紹介しようと思います。

それは、「神武東遷の先例」の話です。この8月に、古代史ブームを牽引されてきた森浩一先生（同志社大学名誉教授）がお亡くなりになりました。6月に「敗者の古代史」（中経出版）を出版されたころでした。その著作の中の「饒速日命と長髓彦」で、神武（イワレビコ）の東遷以前に、饒速日命が九州から東遷して、「先代旧事本記」から、それに加わった人たちの最後に、船長や舵取等の名にふれ、船子の中に為奈部等祖の天津赤星を挙げておられます。そして「大船団だったと推定され船の修理などの鍛師や造船の技に長けたとみられる為奈部（為名とか威奈と表記する氏、のち摂津国河辺郡為奈郷が本拠地）のことで、尼崎市の園田大塚山古墳からは造船用の鉄製 鋸 が出土している、至近の地に猪名氏の氏寺とみられる猪名寺跡もある。」と猪名川流域を比定して紹介されています。

神武東遷の話は、「神武天皇（イワレビコ）は塩土老翁から、東方に美しい土地があり、天磐船で先に降りたものがあると聞く。そして彼の地へ赴いて都を造ろうと、一族を引き連れ南九州から瀬戸内海を経て東へ向かい、難波碕（現代の大阪）へたどり着く。その後、河内国草香邑から生駒山を目指す。そこに土着の長髓彦が現れたため戦うが苦戦する。神武は「日（東）に向って敵を討つのは天の道に反す」として、熊野（紀伊半島南端部）へ迂回し北上することにした。菟田（奈良）に到達し高倉山に登ってあたりを見渡すと、八十梟帥が軍陣を構えているのが見えた。その晩神武の夢に天神が現れ「天神地祇を敬い祀れ」と告げる。その通りにすると敵陣を退治でき、続いて長髓彦を攻める。すると長髓彦は「我らは天磐船で天より降りた天神の御子饒速日命（ニギハヤヒ）に仕えてきた。あなたは天神を名乗り土地を取ろうとされているのか？」と問うたところ、神武は「天神の子は多い。あなたの君が天神の子であるならそれを証明してみよ」と返す。長髓彦は、饒速日命の天羽羽矢と歩鞞を見せる。すると神武も同じものを見せた。長髓彦はそれでも戦いを止めなかった。饒速日命（ニギハヤヒ）は天神と人は違うのだと長髓彦を諫めたが、長髓彦の性格がひねくれたため殺し、神武天皇に帰順して忠誠を誓った。」という古事記、日本書紀の話です。

猪名川流域に定着した部族が、神武以前に九州から造船技術を持って移り住んだと類推される興味深い記述です。もう少しご本人からお話を聞けると、継体天皇や火打の勝福寺古墳から推定できる古代の謎を想像する面白いお話しが伺えたかも知れません。先生のご冥福をお祈りいたします。古代の国家の形成の舞台として興味深いわがふるさとの物語です。

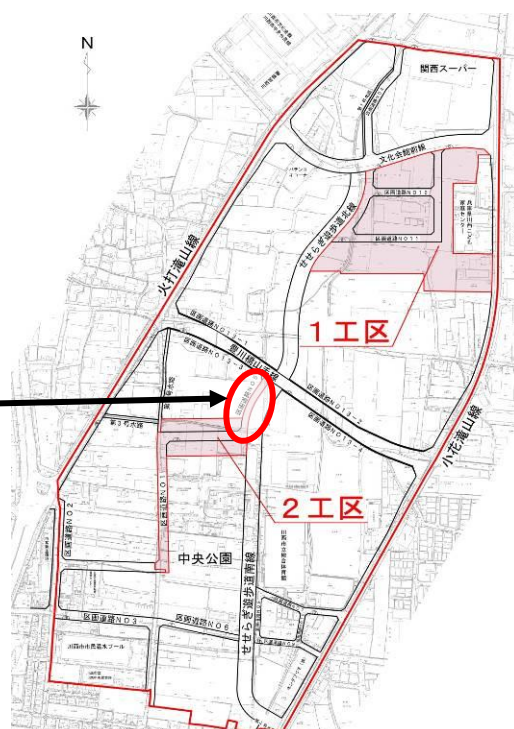
参考：森浩一著「敗者の古代史」（中経出版）、ウィキペディア「ニギハヤヒ」

中央北整備部からのお知らせ

🌸 工事の進捗状況

事業計画に基づいて、第2工区の工事を進めています。区画道路No. 5の工事の状況は以下のとおりです。今後も、ご迷惑にならぬよう注意を払いながら行いますので、ご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

詳しくは地区整備課（072-740-1207）へ。



第6回 阪神間都市計画事業中央北地区特定土地区画整理審議会の開催お知らせ（会議は非公開となります）

日時：平成25年12月25日(水)19:00～ 場所：市役所4階 庁議室

第90回 川西市中央北地区まちづくり協議会 計画検討委員会の開催お知らせ（どなたでも参加できます）

日時：平成26年1月14日(火)17:30～ 場所：市役所5階502会議室

建築物の建築などを行う場合、土地区画整理法第76条許可申請・地区計画の届出が必要です。

登記されていない借地権がある方、権利者が死亡され名義変更されていない方の申告等を引き続き受け付けています！

権利の移動があった場合や、住所氏名の変更があった場合はご連絡を

上記の申告等や「阪神間都市計画事業中央北地区特定土地区画整理事業」について質問などがございましたらご連絡ください。

川西市 中央北整備部 中央北推進室 地区推進課

TEL：072-740-1214 FAX：072-740-1330

日時：午前9時～午後5時半（ただし、土曜・日曜・祝日は除きます）

HP：<http://www.city.kawanishi.hyogo.jp/machi/cyuoukitaseibi/index.html>